

第3回「鹿児島港本港区エリア景観・デザイン協議会」の 議事概要について

- 1 開催日時：令和8年6月12日（金）午前10時30分～午前12時10分
- 2 出席委員：委員11/11人が出席
設計者：梓設計・SUEP・東条設計共同企業体
- 3 主な意見等

○本港区エリアコンセプトプランの具体化について

県 本港区まちづくり推進室長

エリアコンセプトプランの具体化の観点から意見を述べさせていただきます。本港区エリアのまちづくりの方向性やエリアごとの利活用方針を示すエリアコンセプトプランにおいては、スポーツ・コンベンションセンターを整備予定のドルフィンポート跡地の利活用方針について、「本港区のにぎわいの核として、県民が親しむエリア」としており、また、多目的広場につきましては、「ウォーターフロントパークと一体的な活用等が図られる配置を誘導します」としているところでございます。

スポーツ・コンベンションセンターの今後の設計にあたりましては、このことに配慮いただきますよう、お願いいたします。

また、スポーツ・コンベンションセンターの整備がドルフィンポート跡地及びウォーターフロントパークだけではなく、本港区エリア全体のにぎわいに繋がるよう、エリアコンセプトプランに示すまちづくりの5つの方向性、例えば、にぎわいや人の流れを生む仕掛けづくり、県民が憩い、親しむことのできる空間の形成、鹿児島の海の玄関口として世界から観光客が訪れる質の高いまち並みの形成、このようなことにも配慮し、設計を進めていただきますよう、お願いします。

【回答】

スポーツ・コンベンションセンターの設計にあたっては、基本構想や本港区エリアコンセプトプラン、そして、景観ガイドライン及び、本日の景観デザイン協議会の意見も踏まえながら、しっかりと検討していきたいと思っております。

○のぞみの場からの見通し（朝日通り）について

長岡造形大学 川島教授

景観とは単に切り取られたシーンを作ることではなく、流動的な連続性と、後世に引き継がれていく風景を紡いでいくものであり、訪れた人々の動きや記憶を建築的に包み、にぎわいと交流のシーンを創出していきたい。そういう意味では、本港区エリアに訪れた方々の動きなどによって、様々展開する風景の変化などに対して、是非関心を寄せていただきたい。

【回答】

風景は静止したものだけではなく、人の活動などの賑わいも重要と考えており、今回提案した広場を中心に営まれる人も含めた風景について、今後検討していきたい。

長岡造形大学 川島教授

新たな開発や建築計画に伴い、桜島が見えるか見えないかのみが景観について話題になりがちですけれども、新たな計画や建築、公共空間によって人々が地区を巡り、桜島を含み生まれる新しい景色をどのように作っていただくべきかということこそが、議論されるべきであり、重要であろうと考えています。

○オープンスペース回遊性の確保について

長岡造形大学 川島教授

回遊性について、今回の景観ガイドラインでも、最も要点を置いているところで、有効な回遊性を生むためには、多様な場の創出に伴いきめ細やかなスケール感を慎重に紡いでいってほしい。また、回遊性のコンセプトやたたずみの場8についての検討などあれば、お示しいただきたい。

【回答】

当該地だけではなく、まち全体で回遊性や風景について考えていくことが非常に重要だと捉えており、中心市街地からウォーターフロントパークを通り、桜島へ抜ける回遊性を実現したいと考えています。

今回、ご提案したパッサージュ広場は、回遊性に対しても大きなポイントで、まちと海とを繋ぐような場所となっており、回遊性やたたずみの場とし

ての趣旨を、より強く表現出来る場所になるのではないかと考えており、今後より細かく検討していきたい。

それから、桜島の眺望は我々も非常に重要視したところで、マイアミ通りから抜けたところのパッサージュ広場にむけて、桜島がバツと広がるような風景をイメージしておりますので、実現したあかつきには皆様に喜んでいただけるのではないかと思います。

市 都市計画課長

マイアミ通りからウォーターフロントパークに至る、スポーツ・コンベンションセンター内の回遊確保に関連して、イベント終了時の大量の人流さばきというのが、非常に重要ではないかと考えています。その中で、特にスポーツ・コンベンションセンターとマイアミ通りを繋ぐ部分について、人流の円滑な確保という観点から、どのような検討をされているのか教えていただきたい。

【回答】

今回、ご提案した多目的広場や桜島テラスなど、建物の外側に広いオープンスペースを設けており、そこが人の滞留スペースとしても機能することで、利用者の移動時間や退場時間を分散しながら、混雑緩和の効果をもたらすと考えており、今後の設計を進める中で、より具体化していきたいと思っています。

市 都市計画課長

スポーツ・コンベンションセンター基本構想にも記載されている、歩行動線の確保は、非常に大切なところだと思っており、オープンスペースの有効活用も含めて、近くには臨港道路等もあることから、安全面からも歩車分離という観点も含めて、検討をお願いします。

鹿児島大学 小山准教授

今回の回遊性に関しては、提案にある桜島テラスが非常に魅力的なものになるとよいと思う。

周囲に廻らされている（2階部の）桜島テラスは、場所によって眺めも異なると思うので、是非、メリハリを付けた空間設計をお願いしたい。

【回答】

桜島テラスは、ウォーターフロントパークも含めた一体的な公園のような場所にしたいと考えており、いろんな過ごし方が出来る場所として利用してもらえればと思っています。

実際には、樹木を配置し木陰をつくり、ベンチを置いて人々が過ごしやすく、眺望も大事に出来る場所にしていきたいと考えています。

鹿児島大学 小山准教授

ガイドラインを見ると、たたずみの場8は、桜島側に向けた視点だけではなくて市街地側の方にも視点が向いていて、この場所が桜島という大自然を感じる場所であると同時に、市街地側を望める貴重な場所として位置付けられています。その辺りも是非ご考慮いただければありがたいと思います。

【回答】

建物が出来た際には、2階の少し高い視点からまちを眺める、新しい視点場が出来ると思います。

鹿児島大学 小山准教授

今の施設の計画の中で、敷地の北側デッキから降りる階段が計画されていないようです。おそらく非常時の大規模な人流を捌くという意味もあると思うので、そちらにも設置しても良いかと思います。それは非常時だけではなくて、フェリーターミナルや水族館方面との回遊を考えたときにも、あったら良いかなと思います。その点に関する現状、または今後のお考えについて、お聞かせいただければと思っています。

【回答】

おっしゃるとおり、いろいろな場所に、人が上下に降りていける場所があった方が良く考えており、今後全体の動線計画や部屋の配置を含めて、総合的に検討していきたいと思っています。

○まちなみ形成について

長岡造形大学 川島教授

施設稼働率が高く想定されていて、本計画においては、もちろん建築計画として大いに応答していただくことになろうと思うのですが、それに伴い事業計画とも大きく関わり、連携していくことが必須となります。景観は色や形だけで決まるものではなく、人が利用して事業が展開されて賑わいが生まれ、それが広がって地域全体が賑わい、県民の活動の場としての景観が創出されることを目指したいと思うところで、事業主と、設計者やコンストラクションマネジメントを総括するなど、関係者の方々が密接に連携する体制について、どのようなご配慮があるか伺いたい。

【回答】

建物を作るだけではなく、使っていくところが大事だと考えており、今我々が設計する中では、いろんな使い方ができるように考えて設計を進めております。

また、パッサージュ広場や多目的広場を、まちと繋がるオープンスペースと捉え、イベント時にも一体的な利用ができ、日常的にはキッチンカーが来たりマルシェを開いたり、県民の方が日常的にふらっと立ち寄れるような場所になると良いと思っています。

ここの利用形態については、事業者さんや県の皆さんと一緒に考えていく必要があると思っており、今後いろんな使い方が出来るような形で設計を進めていきたいと思っています。

東京大学 高取准教授

多目的広場やパッサージュ広場などについて、おっしゃったように、まさにまちと繋がる大変重要な場でありまして、新しいシンボルとして非常に大きな魅力を増進するものになってくるかと思いますが、例えばキッチンカーや仮設テントなど、日常時のイベント利用も検討されていかれることについて、そういった屋外空間で多様な運用に実際使われる上でよく議論になるのが、電源や水道とか照明・通信環境等の設備について、どのくらいの設備が使えるのかや、イベント事業者さんたちが使いやすいかどうかについても、要素となるかと思いますが。

また、災害時やイベント後の突発的な混雑時などに、施設利用者や来訪者が一時的に滞留する場や待機する空間としても、そうした非常時を見据えた設備計画について、検討されていることがありましたら、教えていただきたい。

【回答】

電源設備や給排水設備は、日常的にも使えて、非常時にも使えるのがベストな計画だと思っており、災害時にも皆さんが炊き出しをしたり、物資を集積したりなど、いろんな使い方が出来るよう、詳細について設計を進めていきたいと考えております。

県 建築課長

先程からお話しにある、回遊性が非常に重要ということで、マイアミ通りからの延長線上が今回の建物の真ん中となり、そこにパッサージュ広場を設け、ウォーターフロントパークに抜けられるのは、かなり特徴的だと思います。

一方で、資料を見ると、アリーナを一体的に利用する場合によっては、閉じるというようなことがあるという提案があったことについて、その場合、回遊性を阻害するような頻度がどの程度あるのか、或いは、そこを通り抜けできないとしても、何らかの回遊動線が確保できるのか、お尋ねしたい。

【回答】

パッサージュ広場を可変するという提案は、いろんな使い方が出来るというのではないかとということで、提案しているものになります。

ただ、閉じる頻度と開く頻度については、現段階では建物をどう運用するかによって変わってくるものだと思いますので、使い方に合わせた開閉が出来るように、今後検討していきたいと思っております。

県 建築課長

回遊動線の確保については、いかがですか。

【回答】

ご説明した内容は、1階を想定したものとしておりまして、今回提案した桜島テラスで2階にも通り抜けのデッキを作っておりますので、もし1階が閉じてしまったとしても、2階を通して周辺と繋がるような回遊性が確保できると考えております。

県 建築課長

そういった、しっかりコンセプトプランに沿った回遊性というものを確保することが、結果的にこの施設を中心としたにぎわいに繋がっていくと思います。その回遊性を確保するためにも、しっかりとしたわかりやすい動

線の明示など、日常はウォーターフロントパークへマイアミ通りから抜けられ、イベント時などで閉じられても、そこへ行きたい方々の所望が果たせるように、そういったことについて、設計を進めていく上で、是非ご検討いただければと思います。

○色彩について

鹿児島広告協会 事務局長

場所的には桜島や錦江湾が目の前というような、非常に色彩的にも彩りが良い場所だと思っております。そういうところに、テラスやスロープなどの構造物が、環境空間に非常になじむようなカラーコーディネートについて、彩りを絞るというふうな話もありますけど、それなどの考え方について教えてほしい。

【回答】

具体的な色については、今後の検討になってくるのですが、基本的には鹿児島市の景観計画に則りまして、この雄大な桜島の風景と調和するような、色彩計画を考えていきたいと思っております。

○屋外広告物について

市 都市景観課長

建物の名称や案内板について、そういうものを設置する場合も屋外広告物に該当する可能性があるので、許可基準等を満足する計画をお願いします。

【回答】

具体的な計画については、これから鹿児島市の屋外広告物条例等を踏まえ、しっかりと検討していきたいと思っております。

○屋根・屋上について

県 建築課長

おそらく、ここの屋根には太陽光パネルは載せない計画ではないかと思いますが、屋根が非常に大きく、こういった勾配をつけているということで、太陽光の反射ということが非常に懸念されると感じています。

そのため、遠く離れた桜島側からなど錦江湾を挟んで、この屋根を見たときに、太陽光の反射についてどのようにお考えかお尋ねしたい。

【回答】

この屋根に関しましては、材料や屋根の勾配によって見え方が変わってくると考えており、そこを工夫しながら太陽光の反射について整理していきたいと思っております。

詳しくは、今後設計を進めていく中で、しっかりシミュレーションをしながらいろんな視点からの見え方について検証しながら、設計を進めて参りたいと思っております。

県 建築課長

こちらの、屋根が非常に大きいというところで、太陽光の角度もですが、桜島の降灰であったり、その後のメンテナンスであったり、非常に大事な建物の部分だと思っておりますので、是非とも様々な角度から最適な屋根素材・形状を、ご検討いただければと思います。

○駐車場・駐輪施設について

長岡造形大学 川島教授

本地区へのアクセスの主要交通のひとつとして車利用がある以上、駐車場の景観は無視できない重要構成要因です。であるならば、駐車場を単なる駐車場として配置するのではなく、優れた景観を生み出すために、駐車場らしからぬ駐車場をいかにつくるか、例えば、駐車場として利用されないときに様々な用途に転用されるなど、多彩で多様なアイデアが求められるところです。今回の提案で、駐車場のアイデアがあれば、お聞かせください。

【回答】

今回の提案にある多目的広場は、臨時駐車場としても利用可能なものとして考えており、芝生やブロックを用いて風景に調和するような計画について、管理運用を含めて検討していきたい。

長岡造形大学 川島教授

駐車場側の道路を隔てた向こうにある、ホテルの計画との連携が、この港街区をとりまとめていく重要な要件であろうと思いますので、その辺りも含めて今後ご検討くださればと思います。

○道路および緑地緑化について

県 都市計画課長

歩行空間の景観への配慮に関連し、道路の移動等円滑化に関するガイドライン等の基準に基づき、例えば視覚障害者誘導用ブロックと歩行空間の色との輝度比を大きくしたり、歩行空間に模様等のデザインを入れる場合は、視覚障害者や発達障害者等への影響が少ないデザインにするなど、バリアフリーとの調和に配慮していただきたいと思います。

【回答】

すべての人に使っていただくという、施設の目的がありますので、皆さんがより使いやすい施設を目指して、計画を進めていきたいと思っています。

○イベント時の緩和について

東京大学 高取准教授

パッサージュ広場は、中心市街地とウォーターフロントパークを繋ぐ重要な空間なので、賑わいを継続させるためにはマイアミ通りのまちづくり協議会などとの連携が大事になってくると思う。

そことの連携について、検討されていることがあれば、お聞かせください。

【回答】

委員のご意見のとおり、マイアミ通りからウォーターフロントパークへの回遊性などでは、我々もパッサージュ広場が重要と考えております。

それを、どのように盛り上げていくかに関しては、広場と同程度のスペースを用いて、実際に様々な方々に体験していただくワークショップの開催等を計画しており、そこで使い方をみんなで考えてみようと思っています。

○その他について

鹿児島大学 小山准教授

西側スロープが長くなるので、途中で休憩できるスペースを確保してほしい。

また、パッサージュ広場において、平等に空間体験できるように、エレベーターと階段を一体的に整備するなど、エレベーター利用者と階段利用者

の動線が分かれてしまうことのないようにしてほしい。

【回答】

スロープの踊り場については、バリアフリー法や福祉のまちづくり条例を遵守したうえで、だれもが使いやすい施設となるよう計画を進めていきたいと考えております。

また、エレベーターや階段の配置について、だれもが同じ空間体験ができることは、非常に大事だと思うので、その思想をもって計画を進めていきたい。

長岡造形大学 川島教授

先程、お話しのあったワークショップについて、有益なものとなることを期待しているので、本協議会の関係者や建築業界の方々の参加を積極的に促してほしいと思います。

以上